

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部環境課

市民経済部長 出口久浩

整理No	事務事業名	3か年実施計画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己評価	評価内容	方向性	内容
1	狂犬病予防事業	なし	C	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止により集合注射が中止となったため、公用車やHPなどでの広報で開業医でも接種できるPRを行い、接種頭数の維持に努めた。また、例年実施している海外転出者における、飼い主変更手続き勸奨事務のほかに、市外転出者や高齢で直近の注射履歴がない犬の所有者に対する生存確認を行い、確認がとれなかった犬の登録を削除し、畜犬台帳の適正化を図った。</p>	改善推進	<p>令和2年度末現在、畜犬台帳に登録している犬の頭数は6,857頭であり、令和2年度に注射を接種した犬は5,948頭だった。畜犬台帳上では、高齢、病気等の理由で注射を猶予された犬121頭の登録があった。このことから、実質、注射を接種しなければならない犬は6,736頭であり、目標値に近い約88%の犬が予防注射を接種したことになる。しかし、約12%の犬が注射を接種しておらず、また、国内で狂犬病の発症者が確認されたこともあり、引き続き犬の飼い主に対して予防注射実施の必要性を広報、周知していく。</p>
2	墓地管理事業	なし	C	<p>有識者や墓地使用者で構成する半田市墓地管理計画策定委員会での議論やパブリックコメント手続きを経て「半田市墓地管理計画」を策定し、今後の市営墓地の維持管理や整備に関する基本方針を定めることができた。一方で、使用者不明区画の解消が思うように進まなかった。また、墓地管理システム上の区画と実際の区画の整合が取れていない可能性もあるため、今後の方針である管理料の徴収に向けて、「徴収対象者の特定」という点において課題である。</p>	改善推進	<p>市営墓地を使用者にとってより快適な施設として整備し、適正な維持管理が行えるよう、墓地管理計画で定めた基本方針※の実現に向けて取り組む。 ※墓地ごとの特性に応じた維持管理及び整備、受益者負担及び無縁化の防止につながる管理料の徴収、合葬墓の整備など。</p>
3	墓地施設快適化推進事業	あり	C	<p>有脇墓地のトイレ設置については、多くの墓参者が訪れるお盆前に工事を完了し、利便性及び快適性を向上させることができた。 北谷墓地のトイレ設置については、工事期間中における駐車場の確保や安全対策を適切に行うことで、墓参者への影響を最小限にし、年末年始までにトイレを供用開始することができた。 通路整備については、有脇墓地の未舗装通路に暗渠排水管を設置し、排水不良箇所の水溜まりを解消することができた。</p>	改善推進	<p>今後の墓地施設の整備については、令和2年度に策定した「半田市墓地管理計画」に基づき、近年のライフスタイルの変化や少子高齢化等による無縁化や墓じまいの増加、高齢者や障がい者の利用などに配慮し、6つの市営墓地の特性に応じた整備を行っていく。</p>
4	環境保全事業	なし	C	<p>大気の常時監視や公共水域の水質調査等により、市内の生活環境が概ね良好であることが確認できた。また、市民が市内の河川等の身近な水環境の実態を知ることができるよう、公共水域の水質調査結果を市ホームページに掲載した。 環境パートナーシップ会議等で以前から指摘を受けていた矢勝川の水質については、汚濁源調査を実施し、おおよその汚濁源特定ができた。 地域猫活動については、市報やホームページに活動内容を掲載し、活動を実施する地域へのチラシ配布等により、市民に幅広く周知を行った。また、令和元年度から登録している、公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業(行政枠)」の活用、個人で活動するボランティアへ捕獲器の貸出し等により、活動する市民への支援を行った。その結果、108匹に対して不妊去勢手術を実施し、野良猫の増加を抑制した。 なお、環境保全協定締結事業所に対する立入調査については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、実施しなかった。</p>	改善推進	<p>矢勝川については、地域住民への現状周知や、汚濁原因と考えられる事業所などへの働きかけにより、水質の改善に努める。事業拡大を行う事業所や新規に立地する事業所に対しては、環境保全協定の締結を呼び掛け、協定締結事業所に対しては、引き続き、定期的に立ち入り調査を実施し、協定項目が遵守されているかどうかの確認を行う。 また、協定締結事業所に対して、地球温暖化対策の視点での新たな協定の締結などにより、「ゼロカーボンシティ」達成に向けての協力を働きかける。 地域猫活動については、令和3年度から新たに設ける「キャットサポーター」制度への登録を推進し、全市的な活動の定着を図る。 なお、大気汚染常時監視については、老朽化した測定装置の更新を行わず、令和2年度をもって終了した。</p>

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
5	環境学習事業		C	今年度も、「参加者数の維持・向上」と「内容充実及び参加者満足度の向上」に重点を置き実施した。新型コロナウイルス感染症の感染不安と思われるが、出前講座の申込数(▲25%)及び自然体験・観察会の申込者数(▲35%)が減少した。しかしながら、アンケート調査(自然体験・観察会で実施)での満足度は93%であったことから、事業内容の充実度がうかがえる。また、市内小中学生を対象にしたポスターコンクールでは、短縮された夏休み中での作成にもかかわらず140点もの応募があり、関心の高さを感じられた。	改善 推進	現在の学習メニューを創設後数年経過し、出前講座においては、実施を希望する学校等が固定されるようになってきた。より柔軟に、学校等での環境学習へ組み込んでいただけるよう「脱炭素社会」や「生物多様性」というテーマで、環境分析調査などとも関連させた事業への転換を図る。また、イベント的な事業となっている「環境学習」を、他部署や事業者、環境保護団体との連携による持続可能な「環境教育」として推進するための取組みとするための手法を検討する。
6	地球温暖化対策事業	なし	C	「はんだエコアクション2019」に代わる長期計画「半田市公共施設CO2排出削減対策実行計画」を策定した。手軽に家庭で取り組みやすい地球温暖化対策としての「緑のカーテン」については、半田農業高校の協力での「緑のカーテン育て方講座」及び地域に出向いての講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。市役所の温室効果ガス排出量は、目標を達成することができた。	拡充 推進	温室効果ガスの排出量削減に向けて、家庭や事業者向けの補助金制度の創設を検討していく。また、「はんだエコアクション2019」の後続計画としての「半田市公共施設CO2排出削減対策実行計画」の推進を図り、市が一事業者としての率先した行動により、地球温暖化防止に向けて取組みを行う。
7	畜産臭気監視事業	あり	C	令和元年度から実施している、大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用した臭気測定を引き続き実施した。令和元年度に市内の全畜産施設で行った3回の臭気測定により、継続して強い臭気が発生している施設がある程度把握できたため、それらの施設に焦点を絞った効率的な測定ができた。一方で、強い臭気が発生している畜産農家に対しては、測定結果の通知と併せて指導・助言を行ったが、臭気低減につながっていない。	改善 推進	悪臭発生の大きな原因である「乾燥施設でのふん尿の乾燥がうまくできていないこと」について、ふん尿の投入量が施設の能力をオーバーしていることを認識している畜産農家もあり、施設改修(拡張)の意向が確認できたため、改修(拡張)に対して、経済課と連携して支援や助言を行う。その他の継続して強い臭気が発生している畜産農家に対しても、施設の改修など、ハード面での対策を働きかけていく。
8	第2次環境基本計画策定事業	なし	B	環境審議会、第2次半田市環境基本計画策定委員会等を運営し、パブリックコメントを経て、アンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応する計画を令和2年度中に策定した。第2次半田市環境基本計画には、SDGsの視点や再生可能エネルギーの活用推進、「2050年CO2排出量実質ゼロ」を達成するための施策などを盛り込んだものとした。	終了	
9	バイオマス利活用支援事業	あり	B	構想の中心プロジェクトであるバイオガス発電施設の整備に関しては、国からの交付金を、愛知県及び本市を経由して、プロジェクトの進行を担う民間事業者に交付するよう、適正に事務を執行し、事業者の支援ができた。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止策として行った現場作業員の人数抑制による工期延長について、国や県、事業者との綿密な調整、協議により、翌年度への事業繰り越しが認められ、交付決定どおりの補助金が交付される見込みである。	拡充 推進	事業者に対して必要な支援を行い、バイオガス発電を推進する。現在、バイオガス発電施設の整備工事が進行しており、令和3年秋に稼働開始予定である。今後は、構想の中心プロジェクトである「バイオガス発電」と、他の3つのプロジェクトを連携して継続させていくために、市、県、学識経験者、関係事業者などで構成する推進委員会を設置して、進捗を管理する。
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
C	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境学習事業や地球温暖化対策事業では講座や参加者の減少など成果に影響が出たものもあった。</p> <p>今後の市営墓地の維持管理や整備に関する基本方針を定めた半田市墓地管理計画、2050年CO2排出量実質ゼロと達成するための施策などを盛り込んだ第2次半田市環境基本計画、市が一事業者として地球温暖化防止に向けて今後どう取り組むかを定めた半田市公共施設CO2排出削減対策実行計画という3つの大きな計画を策定することができた。</p> <p>半田市バイオマス産業都市構想の中心プロジェクトであるバイオガス発電施設の整備に関しては、整備を行っている事業者に対して、国や県への補助金交付申請や実績報告など必要な支援を行い、事業の円滑な推進を図ることができた。</p> <p>墓地などに関する環境衛生分野と地球温暖化防止などに関する環境保全分野の計画策定であったり、苦情・相談であったり非常に多岐に渡る業務を限られた人数の職員で対応することができた。</p>					

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
C	<p>墓地管理事業については、墓地管理計画を策定し、これからの維持管理や整備に関し一定の方向を示すことができた。管理料徴収に向けては、使用者(徴収対象者)の特定や徴収に要する費用、徴収率など多くの課題があるため、これらの課題解決を念頭に制度設計を進めること。</p> <p>第2次環境基本計画については生活環境の保全等に関する施策を推進する計画とし策定することができた。本計画を具現化するための実施計画の取りまとめ推進すること。</p> <p>地球温暖化事業については、「公共施設CO2排出削減対策実行計画」を策定した。この実行計画をもとに、市が一事業者として率先した行動により、地球温暖化防止に向けた取り組みを行うこと。また、ゼロカーボンシティとして、半田市の目指す姿とそこに至る道筋や取り組みを示すビジョンを策定すること。</p> <p>畜産臭気対策事業については、強い臭気が発生している施設について、経済課と連携して、集中的に施設の臭気対策への指導・助言に取り組むこと。</p> <p>バイオマス利活用事業については、半田市バイオマス産業都市構想の中心プロジェクトであるバイオガス発電所の3年秋の営業開始に向けて必要な支援を行うことができた。</p>					